

## は し が き

言語センター長 鈴木将史

『言語センター広報』第20号をお届けいたします。号数が示すとおり、本学が創立100周年を迎える中、本学言語センターも創設20周年となりました。全国には「言語センター」或いは「言語～センター」と銘打つ大学施設は少なからず存在しますが、その大半は建物や機器そのものの所謂「ハード」を指し、本学のように20名以上の教職員を擁する部局はごく稀です。かつて国立総合大学を中心に、語学教員が集合して部局を作る時期がありましたが、そうした部局のほとんどが発展解消された昨今、責任ある語学教育・研究機関としての本学言語センターの独自性は益々高まっているといえるでしょう。さて、今年も非常に厳しい暑さが連続する夏となりましたが、大学を取り巻く環境も依然として厳しい状態が続いています。昨年話題となった、国立大学運営費交付金の大幅カットは幸いなことに実行されませんでした。恒常的な教育・研究費は減少の途にあり、加えて研究雑誌の法外な値上がりにはただただ呆れるばかりです。こうした状況の中でいかに本学特有の良質な教育・研究を維持していくのか、本学も大きな課題を突きつけられているのです。そして本学の語学教育に対しては、創立新世紀に入る本年以降も「北の外国語大学」と呼ばれ続けるよう、言語センターは「正心誠意」努力していく所存です。

それでは本年の言語センターの動向をご報告いたします。施設面では、本年度10月より本学2号館5階第1LL教室が全面更新されました。昨年設置されました第2LL教室に加え、第1LL教室に装備された最新のAV機器やコンピュータシステム、更には新規導入された電子黒板の活用により、本学言語センターは道内で最も先進的な語学教育を可能にする施設になったと確信しております。教育面では、本年度も「外国人による集中外国語講座」を「英会話」(ジェイミー・ケンブ講師)、「中国語」(高翔講師)、「ロシア語」(アレクサンドル・ポリーソヴィッチ・スベヴァコフスキー講師)、「韓国語」(宣憲洋講師)についてそれぞれ10回開講し、好評の内に日程を終了しました。

研究面では、概算要求プロジェクトによる教育開発センターとの共同特定研究「21世紀型市民の育成に向けた学習支援プロジェクト」研究が吉田教授をプロジェクトリーダーとして今年も継続して活発に進められました。また新任スタッフとして、4月には個別言語部門英語系ジョン・サーマン准教授及び、プロジェクト事務補佐員兼非常勤講師として中津川雅宣氏が着任されました。また、本学出身の中学・高校教員と本学教員が参加する第24回「教職研究会」が今年も2号館マルチメディアホール2を会場に12月10日に開催され、今回は創立100周年を記念した山本学長の講演「創立100周年と商業・情報・英語の教育」が行われるなど、盛会裡に終了いたしました。

それでは各教員の海外出張についてご報告いたします。

個別言語部門英語系ダニエラ・カルヤヌ教授は、教員研究費により「IPrA 12th Conference 学会参加及び発表」のため、平成23年7月1日から9日までマンチェスター大学へ出張されました。

個別言語部門中国語系の裴崢教授は、教員研究費により「Training Programs for Overseas Chinese Teachers」の受講及び言葉の表現法に関する調査並びに資料収集のため、平成23年

8月6日から9月7日まで北京語言大学及び北京図書館へ出張されました。個別言語部門英語系吉田直希教授は、科学研究費補助金等により、「18世紀英文学研究に関する資料収集および研究打ち合わせ」のため、平成23年8月8日から21日までニューヨーク大学へ出張されました。同じく吉田教授は、「21世紀型市民育成プロジェクト」研究経費により「e-Learning教材作成のための資料収集」のため、平成23年9月15日から27日までスタンフォード大学へ出張されました。イブラヒム・ファロウク助教は、同プロジェクト経費により、「E-LEARN 2011-World Conference on E-learning in Corporate, Government, Healthcare & Higher Educationでの学会発表」のため、平成23年10月17日から23日までアメリカ・ハワイ州ホノルルへ出張されました。個別言語部門ロシア語系山田久就准教授は、科学研究費補助金等により、「アバール語、他の諸言語に関する資料収集」のため、平成23年12月16日から30日までモスクワ国立図書館他へ出張されました。個別言語部門英語系ジョン・サーマン准教授は、教員研究費により「TBLT国際学会での発表及び資料収集」のため、ニュージーランド・オークランドに出張されました。個別言語部門英語系マーク・ホルスト教授は、国際交流センター運営費により「国際交流に関する打合せ」のため、平成24年1月3日から13日までシェフィールド大学（イギリス）及びブルゴス大学（スペイン）に出張されました。日本語及び日本事情系高野寿子教授は、教員研究費により「アメリカ言語学会2012年度総会に参加、ミシガン大学及びウェスタンミシガン大学で資料収集」のため、平成24年1月5日から13日までアメリカ・ミシガン及びポートランド等に出張されました。比較言語部門高橋純教授は、教員研究費により「ロマン・ロランの手稿調査」のため、平成24年2月26日から3月9日までフランス国立図書館に出張されました。

一方、プロジェクト事務補佐員兼非常勤講師として昨年10月に赴任されました紙田清氏が、高校教諭着任のため3月末付で離任されております。

以上のように、本年度も言語センターの活動は旺盛なものがありましたが、とりわけ印象に残っていることは、公開授業でもある夜間主コースドイツ語の授業に、岩見沢から受講する現役他大学生が現われたということです。この学生は将来のドイツ留学を見据えて受講したとのことですが、札幌にも夜間で語学講座を開講する大学がある中、札幌を飛び越えて岩見沢から小樽に通うその熱意に敬意を表すると共に、本学語学教育への信頼を改めて実感いたしました。この期待を裏切らぬよう、本学言語センターは来年度も活発な活動を続けてまいります。